

への納税相談、訪問徴収や強制執行などの実効性ある地道な徴収対策が功を奏したものと捉えている。

不納欠損額を見ると、一般会計では前年度と比べ1億924万7千余円、率にして93.64%減少し、また特別会計では、前年度と比べ208万1千余円、率にして16.49%減少している。

負担の公平、歳入の確保の観点から、生活困窮者などに対する滞納処分執行停止や時効消滅による処分が滞納の実態に即し、地方税法に基づいて慎重かつ厳正的確になされたものと考ええる。

令和元年度は、第五次白石市総合計画の9年目の年であった。総合計画に掲げた施策を着実に実施するとともに、白石版地方創生総合戦略に基づき、教育環境の整備、移住定住の促進、雇用の創出などの分野で独自性を持った施策を多面的に実施され、限られた予算を効率的に、そして効果的に執行された。

特に、農商工連携を核とした賑わい交流拠点「しろいしサン

パーク」において相次いで施設をオープンさせ、地域産業の活性化や交流人口の拡大、子育て支援などに向けた地方創生の核となる事業を市民とともに積極的に推進されたことが認められ、大いに評価されるものである。

賛成

菊地 忠久

昨年度は、一般会計の実質単年度収支は3億3千420万1千円の赤字となり、特別会計では、実質収支額は1億5千675万6千円となるなど、健全な財政運営がなされている。

また、不納欠損額については、自主納付を促す従来の方針から、滞納繰越者を増やさない方向へと方針を転換、適切な市税徴収に取り組んだ結果、前年度より1億924万7千円も減少し、大幅な改善が見られたことは、大いに評価するところである。

さらに、新たな財源の確保策として、ふるさと納税の受け入れ額を5億円以上と大幅に増加させる成果をあげ、また、

当初見込まれていた財政調整基金の取り崩しはゼロとなり、むしろ積み増しにより基金残高を増やしている。

近年の巨大化する自然災害による緊急事態やコロナ禍の影響などにより、これまで通りの税収などが見通せない中、ここ数年続いていた財政調整基金の減少に歯止めをかけ、逆に増額できたことは、非常に評価できる。

第五次白石市総合計画について、個別の施策に目を向ければ、まず、令和元年度を「教育改革元年」と位置づけ、教育環境の充実に取り組んだことについては、授業改善のPDCAサイクルがおおむね確立されたことから、今後の学力向上に期待が持てる。

また、昨年4月におもしろい市場がオープンし、各施設との連携や相乗効果により賑わいの創出が図られたことから、さらなる賑わいと地域活性化を望むものである。

公立刈田総合病院については、病院運営のため一定の負担は必要であり、現実的となった財政破綻を回避するための資

金注入もやむを得ない。

しかし、刈田総合病院は慢性的な赤字経営が続いており、資金ショートによる経営破綻の恐れがある現況を脱しなければ、資金注入は一時しのぎでしかなく、根本的な解決とはならない。また、財政規模に見合わない多額の繰り出しを続ければ、行政サービスの低下と白石市本体の財政破綻に繋がりがかねない。

そのためにも刈田総合病院の経営改善は急務であり、突出して大きな出資比率を持つ本市が先頭に立って、病院の大胆な経営改善・改革に取り組んでいただくよう、強く要望するものである。

本決算は、限られた財源の中で、時代の要請や地域の要請にこたえるべく、選択と集中によるメリハリの利いた各種施策が着実に実施されており、予算の不正な使用や目的外の使用などもなく、適切な予算の執行と健全な財政運営がなされたものと認められる。

以上の理由から第71号議案に賛成である。

12月定例会は、12月4日(金) 午前10:00開会予定です。

定例会は、市の予算や決算、条例など、市民のみなさんに深く関わりのある議案が審議されます。また、市議会ではインターネットによる中継を行なっています。本会議などをライブ中継や録画映像で視聴できます。

- 8月臨時会の傍聴者数 2人
- 全員協議会の傍聴者数 0人
- 9月定例会の傍聴者数 32人
- 8月・9月の中継・録画視聴者数 2,875人